

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201971
法人名	社会福祉法人駿府葵会
事業所名	グループホームおきつの家
所在地	静岡県静岡市清水区興津中町1134-1
自己評価作成日	令和3年9月6日
評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中で外出、家族面会が出来ない為、季節に合わせた行事、環境、料理に力を入れ喜んで頂けるよう努めています、事故の無いよう体制、環境作りに努めています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2294201971-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201971-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 3年 10月 18日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活を送れるように支えていきます」を掲げ、法人・併設事業所、地域住民の協力を得ながら、理念の実践を図っている。行政関係各課との連携だけでなく、興津地域グループホーム連絡会を立ち上げ、地域包括支援センターや他事業所との交流と協力関係を築いている。コロナ禍により事業所の地域交流室を活用した取組みは制限されているが、ボランティアとの連絡や地域住民との関係の継続を図っている。毎月写真と言葉を添えた「おきつだより」を郵送して、利用者の様子を家族に伝え、面会制限のある中でも関係継続を心掛けている。管理者・ケアマネジャーは、法人が導入した介護記録入力システムを活用しながら、職員との面談や話し合いにより、介護計画に沿った支援の実践に努めている。コロナ禍で制限がある中でも、利用者の希望を聞き取りながら、行事・食事レク・入浴・外出など、居心地の良い環境づくりと暮らしの支援を心掛けている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を考え共有している。理念は「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活を送れるように支えていきます」	事業所理念は、定期的に唱和し、職員全員で共有している。日々の申し送り、月1回の職員会議にて確認し、理念に基づいた対応の実践に繋げている。欠席者は議事録を見て、情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍のため外部との交流が難しい状況であるが隣家の方とは距離をとっての交流は行なえている	施設には地域交流室を設け、併設の小規模多機能事業所とともに、地域交流を図っている。コロナ禍により、現在は交流できない状況だが、ボランティアとの連絡や地域住民からの野菜・果物のお裾分け等により、関係継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7月より管理者の声かけで興津地域のグループホーム連絡会の立ち上げ中、地域連携や地域で何が出来るかを考えて行く予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状コロナ禍である為、書面開催での報告となっている、家族、包括より意見等が出にくい状況です	2か月に1回、書面開催にて事業所の状況報告を行い、意見交換を行っている。地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・近隣住民・家族からの意見を、電話・FAXで募る仕組みを整えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課、権利擁護とのやり取りが多くサービスの取り組みについても密に協力関係を築いている	静岡市葵区・清水区関係各課と連絡を取り、事業所の実情や利用者の状況について相談できる関係を整えている。興津地域のグループホーム連絡会を立ち上げ、地域包括支援センターや他事業所との交流と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1度開催、研修も行い、職員全員が正しいケアの認識を持っている	身体拘束適正化検討委員会を3か月に1回、併設事業所とともに開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人の年間計画に従い、年2回行う職員研修では、職員全員が課題レポートを提出して、身体拘束について正しく理解する仕組みを整えている。	

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での必要研修を行い、高齢者虐待防止の徹底を図っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については利用している利用者がある為、職員にも伝わり理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネジャーは情報共有し、利用者、家族に対して丁寧に分かりやすく十分な説明を行うよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時のサービス担当者会議や、ホーム便りの発送など外部との交流ができる環境調整を行い家族、利用者の希望が反映できる対応を実施している	毎月「おきつだより」を家族に郵送し、担当職員が写真と言葉を添えて、事業所での利用者の様子を伝えている。管理者・ケアマネジャーは条件付き面会での来訪時や電話連絡により、家族からの意見の抽出に努めている。	新型コロナウイルスリスクがある現状では、自由な家族との接触は難しい状況であるが、現状で可能な面会方法等、家族個々の意向を伺うアンケート実施など、ウイズコロナの観点で検討してもらいたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例職員会議や3ヶ月に1回程度の面接を管理者が行い意見や提案を聞き法人にも報告、運営に反映している	定例職員会議では、日々の業務の改善点を話し合い、情報共有を図っている。法人による年1回自己評価表に基づく評価とともに、3か月に1回、管理者は面接票に基づく面談を行い、職員からの意見の抽出と把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価表を通して勤務状況の把握し法人が正当な評価を行い、個々の環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修で職員の知識やケアの質の充実を図り現場での実践も把握し向上に努めている		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	7月より管理者の声かけで興津地域のグループホーム連絡会の立ち上げ中、地域連携や地域で何が出来るかを考えて行く予定、同業者との交流を深めサービスの質を向上させていく取り組みを考えています		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報を把握し、コミュニケーションをとり傾聴し信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時のサービス担当者会議や利用者からの訴えに傾聴し要望に対して可能な限り実現に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人への面談や家族、医療関係者と話し合いサービス導入に対して活用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各職員がコミュニケーションをとりアットホームな雰囲気の中で信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月便りに職員の言葉を添えて報告をし、家族との絆が絶えないよう関係維持に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で厳しい状況ですが、利用者の関わってきた人との交流が可能な限り出来るよう家族中心に行っている	コロナ禍ではあるが、条件付き面会を開始し、家族との関係継続の支援を図っている。外出制限のある中、事業所職員や他の利用者との交流が馴染みの関係となるよう、2か月に1回訪問理美容の利用や事業所での生活の支援に努めている。	

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に全体に気を配り、利用者同士の関わりやすい環境整備、支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談、対応を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一例として夜間に眠れない利用者様には、その方のスタイルを尊重し寄り添う介護を行い、希望に添えるよう努めている	利用者・家族の思いや希望は、入居時にフェイスシート等で得た情報を「ケアチェック要約表」にまとめて、職員全員で共有している。新入時には24時間行動観察をして、利用者個々の意向と課題の把握に努め、日々の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート、アセスメントシートの情報共有や家族や本人からの生活履歴の情報も共有し、これまでの暮らしの把握をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状の状態、機能の把握をし本人の一日の過ごし方を観察、尊重したケアを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの内容やモニタリングの必要性など、サービスの流れや業務への落とし込みは不十分、チームケアの在り方は課題	IoTを活用して介護記録入力システムを導入し、介護計画に沿った日々の支援の実践を図っている。管理者・ケアマネジャーは、利用者支援での気づきが介護計画と連携することができるように、都度職員との話し合いや毎月のユニット会議を活用しながら、改善点の情報共有を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や情報の共有を徹底し取り組んでいる		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階の小規模と連携し困難事例やサービス内容の相談を管理者、ケアマネ間で連携し対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域との交流がない現状のため地域資源の利用は出来ない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在往診対応を月2回実施している、夜間を含め急変時の診療を24時間体制で受けて下さっており利用者の体調管理を行っている、薬に関しても薬剤師とも連携し急な対応の支援もしている	協力医による月2回の往診と看護師の週1回の訪問による定期的な体調管理とともに、緊急時の対応は24時間診療の体制を整えている。服薬は、かかりつけ薬局の薬剤師により管理し、職員・家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師との情報共有、連携し受診、看護の支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームと訪問診療先と細かな連携により主治医が入院先病院との情報共有を積極的に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当法人の指針としてグループホームでの看取り介護は行わない方針の為、早い段階で法人内特養や病院系に移行する考えですが、状況によっては重度化した場合や終末期の検討を行う	看取りについては、事業所での方針を入居時に利用者・家族に説明して、同意を得ている。重度化した場合には、管理者は主治医・看護師・ケアマネジャーとともに、他施設への移行を含めた事業所での対応を再度家族に説明し、家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期避難訓練時に看護師の協力を仰ぎ、講習、訓練を全職員対象に行い備えの周知をしていく		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期避難訓練時に消防署の協力を仰ぎ、講習、訓練を全職員対象に行い備えの周知をしていく	避難訓練の際には、消防署と協力のもとAED講習や消火訓練、法人看護師の協力による緊急時の初期対応や応急処置の訓練など、実践的な訓練を実施している。発電機・AEDを備え、水・食料の備蓄品は、ローリングストックで在庫数を管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、プライバシーを損ねない言葉かけや対応の周知に努めている。利用者の希望や気持ちになるべく添い、心ある対応を心掛けている	法人の年間計画により、個人情報・プライバシー保護の研修を定期的に行い、職員の資質向上に努めている。声掛けや利用者の呼び方には、特に留意し、課題がある職員には、管理者は都度注意することを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ禍で外出の要望は実現できず、「何か食べたいものは」の問いかけに、すぐに返答は返ってくるので実現できるよう努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者の意向に添いペースに合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で思うように散髪ができませんが、本人が自分の好みに合わせ、洋服を着て頂いたり、化粧をして身だしなみを整えられるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな食べ物や旬の食材を取り入れ、月に1回以上食事レクを開催している、簡単な盛り付けや食器洗いをして頂いている	業者による食材を調達・調理し、栄養バランスの良い食事を提供している。食事レクリエーションの際には、ちらし寿司・いなり寿司、カレーやおはぎ作りなど、利用者の好みを反映してメニューを決め、食事を楽しむ工夫を心掛けている。利用者は、食器洗いや片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はいつでも見直せるように記録に残している、水分量の確保ができるよう食事以外(ゼリー等含め)でも提供するように努めている		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している、介助が必要な利用者には付き添い仕上げを行なっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンを把握できるよう努めている、トイレでの排泄が出来るよう排泄時間を確認して声掛けし、トイレ誘導を行うようにしている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握するとともに、生活チェック表に食事・服薬・水分摂取量・バイタル等を記載し、利用者の状態にあわせたトイレ誘導を心掛けている。リハビリパンツ利用者も見守りながら、トイレ利用を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供したり、水分を多めに摂るよう声掛けし努めている、日中は適度な運動を取れ入れるために体操を行ったりと心掛けている、定期往診での相談で助言も頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めているが利用者の体調や希望に合わせて曜日や時間を変え対応している、冬至には柚子湯にしたり季節を感じて頂いている	週2回を基本として、利用者の体調や希望に合わせて曜日・時間を調整しながら、ユニットごとに分担して入浴を支援している。同性介助や午前・午後入浴など、拒否なく入浴してもらえるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医との連携で状況に応じて服薬調整、夜間ケア、巡視、統一した見守り支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬表を制作、内容の周知で確認、認識に努めている、かかりつけ薬局の講習でも知識を学んでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の中で個々の役割、楽しみ事を探し、レク、体操等の支援をしている		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により法人より外出、外部面会禁止令になり、しばらく外出が出来ていませんが、終息すればいつでも外出出来るよう支援していきます	コロナ禍により大勢での外出は制限しているが、利用者個々に敷地内の散歩や外気浴を心掛けている。緊急事態宣言の合間に、併設事業所の送迎車を利用して、花見ドライブに出掛けることが出来た。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々におこずかいをお預かりしていて、必要に応じて買物支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望により電話、手紙のやりとりを適宜対応支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間壁のホワイトボード上には毎月、折紙やお花紙などにより装飾し色々な花や風景を表現して少しでも利用者様に季節感を持って頂くよう配慮している	毎月、季節に合わせた作品を掲示し、季節の変化を感じながら暮らせるように工夫をしている。感染症対策として、定期的な換気と食事前の消毒の徹底と、午前・午後の清掃に努め、清潔な環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間におけるソファの配置など利用者様同士が思い思いにリラックスして過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ、使い慣れた物を使用して頂く、安全に過ごして頂けるよう家具の配置を考えている	居室にはベッド・吊り棚が設置されているが、利用者が使いやすいようにベッドの位置を移動させ、箆笥・神棚・テレビ等を持ち込み、利用者好みの居心地の良い空間づくりを心掛けている。衣替えは、家族の協力を得ながら、担当職員を中心に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存能力が失わないよう、安全に過ごせるように設備や家具等の配置を考え安心な動線を確認出来るよう工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294201971		
法人名	社会福祉法人駿府葵会		
事業所名	グループホームおきつの家		
所在地	静岡県静岡市清水区興津中町1134-1		
自己評価作成日	令和3年9月6日	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2294201971-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201971-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 10月 18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍の中で外出、家族面会が出来ない為、季節に合わせた行事、環境、料理に力を入れ喜んで頂けるよう努めています、事故の無いよう体制、環境作りに努めています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を考え共有している。 理念は「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活を送れるように支えていきます」		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍のため外部との交流が難しい状況であるが隣家の方とは距離をとっての交流は行なえている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7月より管理者の声かけで興津地域のグループホーム連絡会の立ち上げ中、地域連携や地域で何が出来るかを考えて行く予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状コロナ禍である為、書面開催での報告となっている、家族、包括より意見等が出にくい状況です		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課、権利擁護とのやり取りが多くサービスの取り組みについても密に協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1度開催、研修も行き、職員全員が正しいケアの認識を持っている		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での必要研修を行い、高齢者虐待防止の徹底を図っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については利用している利用者がある為、職員にも伝わり理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネジャーは情報共有し、利用者、家族に対して丁寧に分かりやすく十分な説明を行うよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時のサービス担当者会議や、ホーム便りの発送など外部との交流ができる環境調整を行い家族、利用者の希望が反映できる対応を実施している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例職員会議や3ヶ月に1回程度の面接を管理者が行い意見や提案を聞き法人にも報告、運営に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価表を通して勤務状況の把握し法人が正当な評価を行い、個々の環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修で職員の知識やケアの質の充実を図り現場での実践も把握し向上に努めている		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	7月より管理者の声かけで興津地域のグループホーム連絡会の立ち上げ中、地域連携や地域で何が出来るかを考えて行く予定、同業者との交流を深めサービスの質を向上させていく取り組みを考えています		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報を把握し、コミュニケーションをとり傾聴し信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時のサービス担当者会議や利用者からの訴えに傾聴し要望に対して可能な限り実現に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人への面談や家族、医療関係者と話し合いサービス導入に対して活用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各職員がコミュニケーションをとりアットホームな雰囲気信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月便りに職員の言葉を添えて報告をし、家族との絆が絶えないよう関係維持に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で厳しい状況ですが、利用者の関わってきた人との交流が可能な限り出来るよう家族中心に行っている		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に全体に気を配り、利用者同士の関わりやすい環境整備、支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談、対応を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一例として夜間に眠れない利用者様には、その方のスタイルを尊重し寄り添う介護を行い、希望に添えるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート、アセスメントシートの情報共有や家族や本人からの生活履歴の情報も共有し、これまでの暮らしの把握をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状の状態、機能の把握をし本人の一日の過ごし方を観察、尊重したケアを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの内容やモニタリングの必要性など、サービスの流れや業務への落とし込みは不十分、チームケアの在り方は課題		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や情報の共有を徹底し取り組んでいる		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階の小規模と連携し困難事例やサービス内容の相談を管理者、ケアマネ間で連携し対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域との交流がない現状のため地域資源の利用は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在往診対応を月2回実施している、夜間を含め急変時の診療を24時間体制で受けて下さっており利用者の体調管理を行っている、薬に関しても薬剤師とも連携し急な対応の支援もしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師との情報共有、連携し受診、看護の支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームと訪問診療先と細かな連携により主治医が入院先病院との情報共有を積極的に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当法人の指針としてグループホームでの看取り介護は行わない方針の為、早い段階で法人内特養や病院系に移行する考えですが、状況によっては重度化した場合や終末期の検討を行う		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期避難訓練時に看護師の協力を仰ぎ、講習、訓練を全職員対象に行い備えの周知をしていく		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期避難訓練時に消防署の協力を仰ぎ、講習、訓練を全職員対象に行い備えの周知をしていく		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、プライバシーを損ねない言葉かけや対応の周知に努めている、利用者の希望や気持ちになるべく添い、心ある対応を心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ禍で外出の要望は実現できず、「何か食べたいものは」の問いかけに、すぐに返答は返ってくるので実現できるよう努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者の意向に添いペースに合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で思うように散髪ができませんが、本人が自分の好みに合わせ、洋服を着て頂いたり、化粧をして身だしなみを整えられるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな食べ物や旬の食材を取り入れ、月に1回以上食事レクを開催している、簡単な盛り付けや食器洗いをして頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はいつでも見直せるように記録に残している、水分量の確保ができるよう食事以外(ゼリー等含め)でも提供するように努めている		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している、介助が必要な利用者には付き添い仕上げを行なっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンを把握できるよう努めている、トイレでの排泄が出来るよう排泄時間を確認して声掛けし、トイレ誘導を行うようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供したり、水分を多めに摂るよう声掛けし努めている、日中は適度な運動を取れ入れるために体操を行ったりと心掛けている、定期往診での相談で助言も頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めているが利用者の体調や希望に合わせて曜日や時間を変え対応している、冬至には柚子湯にしたり季節を感じて頂いている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医との連携で状況に応じて服薬調整、夜間ケア、巡視、統一した見守り支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬表を制作、内容の周知で確認、認識に努めている、かかりつけ薬局の講習でも知識を学んでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の中で個々の役割、楽しみ事を探し、レク、体操等の支援をしている		

静岡県(グループホームおきつの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により法人より外出、外部面会禁止令になり、しばらく外出が出来ていませんが、終息すればいつでも外出出来るよう支援していきます		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々におこずかいをお預かりしていて、必要に応じて買物支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望により電話、手紙のやりとりを適宜対応支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間壁のホワイトボード上には毎月、折紙やお花紙などにより装飾し色々な花や風景を表現して少しでも利用者様に季節感を持って頂くよう配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間におけるソファの配置など利用者様同士が思い思いにリラックスして過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ、使い慣れた物を使用して頂く、安全に過ごして頂けるよう家具の配置を考えている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存能力が失わないよう、安全に過ごせるように設備や家具等の配置を考え安心な動線を確認出来るよう工夫している		